G04 情報をわかりやすく伝える表現と技術

基礎教育センター・総合教育教室・教授・川端　元子
mkawabata@aitech.ac.jp

キーワード　日本語母語話者、日本語非母語話者、表現の適切さ、表現技術教育

概要

円滑なコミュニケーションを進めるためには、その情報を受け取る相手の立場に立ったわかりやすく明快な表現が求められる。現代は、情報の発信者と受信者の関係、情報を受ける対象や発信の媒体、情報伝達の目的などによって日本語表現も多様化している。そのため、単に会話によるコミュニケーションにとどまらず、多様な場面でのコミュニケーションにおける表現の的確さ、適切さの必要性が指摘されるとともに、言語研究の表現技術教育への適用が意識されている。また、世代間や日本語母語話者と日本語非母語話者間で的確な情報伝達が行われるために、「やさしい日本語」「やわかりやすい日本語」を見直す必要に迫られている。

現代日本語に関する共時的な研究では、語句の意味用法の記述をもとに意味用法を規定する要因やその表現の文脈的含意の分析を通して、それぞれの表現の持つ機能や特性に注目している。このような研究は、文章表現の内容理解はもちろんのこと、的確な情報伝達やニーズに合ったわかりやすい表現技術の教育を視野に入れたものであり、言語表現のコミュニケーション機能により重点をおいたものである。

セールスポイント

1．言語能力はあるのに情報の伝え方が下手という現象の要因分析。 (1)(3)
2．意味が曖昧とされる副詞的表現の機能分析とそのツールとしての活用。 (2)
3．情報の目的や内容に応じたわかりやすい表現技術の理解と応用。

企業等での活用例、今後の展望等

1．企業における取扱説明書や自治体発信情報における文章表現作成への協力
2．日本語表現に関する企業内研修や、日本語教育研修の企画や教授資料作成。
3．日本語表現の現状をふまえ、情報伝達の目的に合わせた文体や用語選択の提案。

参考資料

(1). 金澤裕之、川端元子、森篤嗣編著（2021）『日本語の乱れか変化か−これまでの日本語これからの日本語』、ひつじ書房
(2). 川端元子（2020）「副詞『よく』の意味を規定する基準のあり方」『名古屋大学国語国文学』123、1-14（論説資料保存会編『国学論説資料集』56に再録）
(3). 川端元子（2011）『正しい言葉遣い　語彙力・表現力一問一答』森山卓郎監修、産業能率大学